

**「持続可能な開発のための教育(ESD)」の充実のために**

# **ESD実践事例集**

広島県ユネスコスクール連絡協議会

平成24年3月

I 実践事例集の活用に当たって . . . . . 1

II 実践事例

<小学校>

1 福山市立駅家西小学校 . . . . . 2

2 福山市立内海小学校 . . . . . 4

<中学校>

3 大竹市立栗谷中学校 . . . . . 6

4 広島県立広島中学校 . . . . . 8

5 山陽女学園中等部 . . . . . 10

<高等学校>

6 広島県立呉三津田高等学校 . . . . . 12

7 広島県立広島井口高等学校 . . . . . 14

8 広島県立安芸府中高等学校 . . . . . 16

9 広島大学附属高等学校 . . . . . 18

## 実践事例集の活用に当たって

本事例集は、E S Dの指導資料「新学習指導要領に示された『持続可能な社会』の実現のために」（広島県教育委員会）に示した基本的な考え方や児童生徒に身に付けさせたい力が具体的な実践事例を通して理解され、各学校の今後の取組の参考となるように作成しました。

各学校の実践事例は、次のような構成・内容で作成しています。

### 1 活動概要

学校全体のE S Dの取組を示しています。

### 2 本実践事例について

事例の解説を掲載しています。特に「(2) 指導のポイント」については、3つの「E S Dを通して児童生徒に身に付けさせたい力」(※)に係るものに下線を引き、どの力と関係しているかを示しています。

### 3 学習指導案

実践の具体的な様子を学習指導案で示しました。

### 4 児童生徒の反応

実践後の変化がわかるように、児童生徒が書いた感想や指導者が見取った様子を掲載しています。

## ※ E S Dを通して児童生徒に身に付けさせたい力

### 1 環境の保全と経済の発展の両立を探究するなど、多面的・総合的に考えることができる

自然環境を守っていくことが大切である一方で、地域の人々が生活していくための環境整備も大切である。環境問題に限らず、簡単に答えが出ない問題を、様々な角度から考え、議論していくことを通して総合的に考えることができる力が求められている。

### 2 立場や考え方の違う人々を理解するとともに、相手を尊重しながら、協同的に課題を解決することができる

地球上では、異なる歴史や伝統、生活習慣をもつ人々がそれぞれの社会を形成して暮らしている。都市部と地方、先進国と発展途上国などで、立場や考え方が異なることも少なくない。相手の考えを理解し、尊重しながら、議論していくことを通して協同的に課題を解決することができる力が求められている。

### 3 誰が取り組んでも持続するようなシステムを考え、構築に向けて主体的に行動することができる

一部の関心が高い人々しか協力してくれない方法では、多くの人々が参加し、将来の世代まで続くような解決策にはならない。様々な考え方を持つ様々な人々が行動しても、問題が解決に向かうような「システム」の構築に向けて、議論していくことを通して主体的に行動できる力が求められている。

# 知ろう 学ぼう 私たちの文化（室町文化体験学習）

福山市立駅家西小学校

## 1 活動概要

21世紀の地球時代を生き「輝きのある未来」にするための教育として、全学年でESD（持続発展教育）を推進している。本校では、4年前から、全学年がESD関連カレンダー（各教科等の指導内容をESDの視点で関連付けた年間指導計画）を作成しており、現在はそのカレンダーを基に各学年が3つの領域（環境教育・多文化国際理解教育・人権平和教育）で、系統的に学ぶことができるようカリキュラムを工夫して取組を進めている。

このことにより、児童に持続可能で希望のある未来社会の担い手となるための資質・能力（行動力と実践力）を育むことをねらいとしている。

## 2 本実践事例について

### （1）本事例実施の背景・これまでの取組

世界には多種多様の文化があり、いずれの文化もその土地の気候、風土、習慣、言語、宗教などに適した形で発展してきている。それぞれ固有の文化の価値を認めるとともに、地域の歴史や文化を学び、今の生活に根付いている室町文化を体験することで、伝統文化継承の意義や日本文化の価値を理解し、それが多文化理解・国際理解の基盤を形作ると考える。

室町文化体験学習では、例年「茶の湯」「琴」「水墨画」「狂言」を学習してきたが、ここ2年間は「能」「茶の湯」「琴」の学習をしてきている。6年生になるまでに、子ども達は、4・5年生でお茶の接待や音楽の授業で琴の学習をしてきている。従って6年生になると「室町文化を体験できる」という期待をもって、この学習をスタートする。このように、室町文化体験学習が下の学年や次の学年の学び、日々の生活につながり広がるよう、系統的で継続した学びを形作るよう努めてきている。

### （2）指導のポイント

- ☆ 室町文化の体験・国語科・社会科・道徳の学習の関連を図り、長い歴史の中で、今の自分達の学習や生活のもとになっている文化が作り出され、受け継がれているすばらしさに気付かせるとともに、一人一人がその文化の伝承者であることを自覚させる。  
(付けたい力1)
- ☆ それぞれの文化の特徴や良さ・違いなどについて、調べ活動・文化体験交流・発表会・卒論作成を通して、自分の考えを持ち表現する力を付けさせる。友だちの発表から自分の生き方を振り返る場とする。(付けたい力1, 2)
- ☆ 相手意識・目的意識を明確に持ち、指導を受けるボランティアの方や発表の場で接する人たちへのよりよい対応力やその場に応じた作法、コミュニケーションの取り方を身に付けさせる。(付けたい力2)
- ☆ 体験した室町文化の中で身に付けたいと考えたものを、日常生活の中で積極的に活かすための具体的な工夫を考えさせる。(付けたい力3)

### 3 学習指導案

◎本時の授業…これまで継続してきた室町文化体験を振り返り、室町文化がなぜ今まで継承されてきたのかを考えることで、日本の伝統的文化・日本独自の価値観・風俗習慣などの認識を深め、共感を持ち、それらを伝承していこうとする態度や文化をより一層豊かにする実践力を育てる。

#### (1) 本時のねらい

室町文化体験から、そのよさは何であるかを考え、伝えていけるもの、生かせるものは何かを考える。

#### (2) 対象学年 第6学年

|      | 学習活動   | 指導上の留意点   | 評価                            |
|------|--|---|-------------------------------|
| 課題把握 | 1. 本時の学習を把握する。<br>目標である室町文化体験発表会のイメージを持たせる。<br>2. 課題設定をする。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">室町文化発表会で何を伝えるかを明らかにする。</div> | ・さらに、イメージの明確化を図るための話し合いが必要なことに気付かせ、課題設定をする。                                 |                               |
| 自力解決 | 3. よさや伝えてきた人の思いを考える。<br>・作法を守ってお茶を点てたい。わけは、人をまねいたときの「おもてなしの心」を伝えたいから。<br>・みんなと心を合わせて琴をひきたい。わけは、日本の文化のよさを味わってもらいたいから。<br>・姿勢良く謡をうたいたい。わけは、見ている人も気持ちがしゃんとするから。<br>4. 自分の考えを隣の人に伝える。    | ・ノートに自分の考えに理由をつけて書かせる。<br>・座席表で見取り、集団解決の見通しを立てる。<br><br>・ペアトークで相手に伝えさせる。    | ○自分が体験した活動を振り返り、ノートに考えが書けている。 |
| 集団解決 | 5. 発表会で何を伝えるか話し合う。<br>・600年以上にわたって伝わってきた文化を自分達も守り、ぜひ伝えていきたい。<br>・日本文化独自の相手を思いやる心は、これからもとても大切で伝えるべきことだ。私たちも思いやりの心を持ち発表会をしたい。<br>・私達もりんとした姿勢や気持ちを大切に発表会をしたい。                           | ・伝統文化のよさや伝えてきた人の思いを入れながら、伝えたいことを話し合わせる。<br><br>・自分たちが体験したことを伝える意味・意義を考えさせる。 | ○自分の考えを、根拠を持って話すことができる。       |
| まとめ  | 6. 発表会で伝えたいことを一言でまとめる。<br>・謡の声に気持ちを込めるため、しっかり声を出す。<br>・伝統文化のよさを伝える。  | ・めあてを達成させるために自分ができていることを考えさせる。  |                               |

### 4 児童の反応（授業後の感想等）



私は、舞うことに大切なのは「姿勢を保つこととみんなの心をそろえる」ことだと思いました。これからどんどん学んでいきたいです。



茶の湯の学習を通して、一番大切にしないといけないことが「誠意をもってもてなす心」であることが分かりました。これは、お茶をしている時だけでなく、普段からも使えることなので、相手を思いやり、誠意をもって行動することが大切だと思いました。

# 未来の担い手を育てる環境教育

福山市立内海小学校

## 1 活動概要

本校では、エネルギー・環境問題は我々の生活から切り離すことのできない大切なテーマであると考え、エネルギー・環境教育を基軸としたE S Dを推進している。次世代を担う児童に「限りある資源を有効に使うために責任ある選択と行動ができる資質や能力を養う」ことをめざして取り組んでいる。

児童にとって身近な環境である「海」を学びの場とし、低学年では「身近な自然を楽しみ、自然のよさに気付く」、中学年では「身近な自然や環境を守るための方法や取組について考える」、高学年では「身近な生活や環境から解決すべき課題について自分たちにできることを考える」活動をしている。

## 2 本実践事例について

### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校では、平成19年度より環境グローブ活動として、5年生が毎日、定時・定点気象観測を行っている。児童は、これまで蓄積したデータをグラフ化し経年比較することで、平均気温や海面温度が上昇していること、月別平均最高気温・最低気温の差が開いていることなどに気付いた。このことから、自分たちの住んでいる地域でも温暖化が進んでいるのではないかと、環境や人々の生活にも影響があるのではないかと、そして、今の環境を未来へ残すために自分たちに何ができるか考えてきた。また、児童は、身近な環境の変化について調べる中で、獲れる魚の種類が変わったり、漁獲量が減ったりしていることにも気付いた。しかし、その原因は温暖化によるものだけではなく、ごみのポイ捨てや山林の荒廃による藻場の減少、漁法の変化による獲り過ぎなどにもあることが分かった。

大好きな内海の環境を守るために、地球温暖化の原因であるCO<sub>2</sub>削減や環境保全について自分たちにできることを考え、実践し、地域への情報発信も行っている。

### (2) 指導のポイント

- ☆ 気象観測データをグラフや表にして比較することで、環境の変化や温暖化の兆候をとらえさせる。データと体験したことを結び付けて考えさせる活動を通して、情報収集・分析能力・論理的思考力を育てる。(付けたい力1)
- ☆ 環境や生き物への影響について、調査・体験とこれまでに学習した内容を関連させて考え、温暖化による変化だけではなく、ごみによる環境悪化や魚の獲り過ぎなど、原因や変化を多面的に考えさせ、生活や産業活動とのつながりをとらえさせる。(付けたい力1, 2)
- ☆ 内海の自然環境(海)を未来に残していくために、自分たちにできることや地域でできることを考え、実践したり呼びかけたりさせる。(付けたい力3)
- ☆ 体験活動と探究の過程(課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現)を大切にする。整理・分析、まとめ・表現する活動では、各教科・領域で学んだことを活用させる。

### 3 学習指導案

◎本時の授業 … 身近な環境について調べたことをもとに、環境の変化はいくつもの要因が重なって起きていることに気付かせ、地域環境を守るために、今、自分たちができることを考えさせる実践である。

#### (1) 本時のねらい

地域環境の変化はさまざまな要因によって起きていることが分かる。

#### (2) 対象学年 第5学年

|      | 学習活動   | 指導上の留意点   | 評価                          |
|------|--|---|-----------------------------|
| 課題把握 | 1. 本時のめあてを確かめる。<br><br>環境の変化について調べたことをもとに、その原因を考えよう。   | ・追究課題を確認させる。  |                             |
| 自力解決 | 2. 環境の変化について調べたことをもとに、その原因を考える。<br>・魚の種類の変化→温暖化<br>・漁獲量の減少→ごみ、藻場<br>獲り過ぎ<br>・外来種の魚(南の海に住む魚)<br>→温暖化、外国船の寄港<br>・海苔の減産→温暖化、水質の変化 | ・環境の変化について根拠(体験、話、数値など)をはっきりさせる。  |                             |
| 集団解決 | 3. 環境の変化の原因を話し合う。<br>・温暖化(海水温の上昇)<br>・海に捨てられるごみ<br>・稚魚が育つ場所の減少<br>・獲り過ぎ<br>・外来種<br>・水質の悪化                                      | ・原因をカードに書いて貼り出し、分類・整理させる。<br>・多面的に考えさせ、さまざまな原因をつなげて考えさせる。                           | ○地域の環境変化は様々な要因で起きていることが分かる。 |
| まとめ  | 4. できることを考える。(解決の見通し)<br>・温暖化防止のための活動<br>・家庭から出るCO <sub>2</sub> の削減<br>・ごみ削減の取組み<br><br>5. 学習を振り返る。                            | ・課題解決のために何をすればいいか、どんなことを調べていくのかを考えさせ、今後の調査活動の見通しを持たせる。<br><br>・自己の伸びや友だちのよさを振り返らせる。 |                             |

### 4 児童の反応(授業後の感想等)

内海の特産品であるのりの生産量が減っていることや内海の海でも南の海に住む魚が見られるようになったことなど環境問題の深刻さが分かった。環境の変化の原因には、さまざまなものがあるが、自分達にできることをしなければならぬと思う。未来の内海が心配だ。

学習したことで小さなことが大切だと思うようになった。テレビを見る時間を減らすこと、使わない部屋の照明を消すこと、水を止めながら手を洗うこと、バケツの水で雑巾を洗うことなど、自分たちができることは小さなことだけれど、みんなでやることでいつかは環境をよくできると思う。できるときに、できることを。



# 地域の自然，環境，人との関係を考えてESDの学習

## 大竹市立栗谷中学校

### 1 活動概要

本校の総合的な学習の時間では、4つの学習領域「自然にやさしい農業」、「水といのち」、「身近な他者とのかかわり」、「森の学習と未来への選択」を設定し、学年で一つの領域を学習して3年間で全てを学習できるようにしている。また、小学校との連携学習もこの中で行っている。

今年度は、全校生徒5名という小規模の学校になったため、全学年の取組として、「未来への選択としての森の学習」という学習領域を行ってきた。地域での学びを通して、地域の良さを継承しつつ、更に発展させていくという自分の役割に気づかせることをめざすものとした。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

「総合的な学習の時間」に、地域を基盤とした学習「持続可能な開発のための教育(ESD)」をテーマにして、学習を始めて今年度で7年目になる。

学習のねらいは、「ふるさと栗谷を愛し、グローバルに考え、行動できる子どもを育てていこう」というものであり、地域の題材を通して、未来につながるものを見つけていこうとするものである。地域の良さ(自然・人間・文化・つながり)を生かした学習を進め、自分を見つめることと他者とのつながりを大切に、「生きる力」を育てていきたいと考えて行ってきた。

取り組んできた学習は、自然・環境では「バイオマス資源の活用と実践」「生物資源型農業の体験(アイガモ農法と不耕起農法を取り入れたもの)」、人との関係では「一人住まいの高齢者の方への訪問」であり、中学校全学年と小学校との連携学習で実践した。

#### 学習内容

(1) 「森の資源」の活用による調査研究

(2) 森の活用の実践体験活動

- ① 4月：シイタケ栽培 ② 5月：炭焼き体験 ③ 7月：グリーンツアリズムとしての沢登り体験  
④ 11月：バイオマス資源の活用でロケットストーブの設置 ⑤ 12月：ペレットストーブの講演と設置

(3) 古代米の米作り(アイガモ放鳥と不耕起栽培：苗づくり、田植え、水の管理、稲刈り、精米)

(4) 一人住まいの高齢者へのおたっしやメール(色紙・プレゼント)を贈る

#### (2) 指導のポイント

- ☆ ロケットストーブの製作を通して、与えられた情報から、自らがどう判断し、よりよいものをつくっていくかという、課題を解決する資質や能力を育てる(付けたい力1)。
- ☆ ロケットストーブの製作を、外部講師と交信しながら、全員で協力して作業することにより、問題の解決に向けて協同的に取り組む態度を育てる(付けたい力2)。
- ☆ ロケットストーブという、化石燃料を用いない暖房システムの構築に向けて考え、行動していけるようにする(付けたい力3)。




### 3 学習指導案

◎本時の授業… (11月17日) ロケットストーブの製作 (本体から煙道、蓄熱部を作る)

#### (1) 本時のねらい

外部講師とのインターネットテレビ会話で、製作の問題点や課題を解決しながら、完成させる。

#### (2) 対象学年 第1, 3学年

|      | 学習活動  | 指導上の留意点   | 評価                                   |
|------|---|---|--------------------------------------|
| 課題把握 | 1 前回の設置作業を確認して、今回の目標と課題をつかむ。  |   |                                      |
| 自力解決 | 2 これまでの製作状況の報告をする。<br>ヒートライザー頭部の耐火セメント塗りや出口煙管部が確実にできているかを確認。  | ・インターネット回線で双方からあいさつを交わし、発信状態とこれまで製作した所についての確認ができるようにする。 | 製作状況を正しく表現し、伝えられているか。(観察)            |
| 集団解決 | 3 作業を協同で行い、完成させていく方法を考える。<br><br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                     今回の作業で特に注意しなければならないところはどこですか。                 </div> | ・わからない所は随時発信をしながら確かめていけるようにする。                          | 疑問点を明確にし、適切な質問を行うなどの思考ができてきているか。(観察) |
|      | 4 発信しながら作業をする。<br>(煙道の設置、蓄熱部のやり方、赤土で固める方法など)<br><br>テレビ会話で発信している様子<br>5 煙道が完成したら、試運転での点火をする。<br>6 蓄熱部の形成の仕方を習い、完成へ。 | ・細部にわたる所はカメラを移動してよくわかるように発信する。<br>・生徒の疑問が反映できるように促す。    |                                      |
| まとめ  | 7 今日の作業を振り返っての感想と今後しておく事の確認   |   |                                      |

### 4 生徒の反応 (授業後の感想等)

10月13日、「日本ロケットストーブ普及協会」の方にストーブの説明を聞き設置をした。この日は、本体部の設置で終わった。11月17日に、仕上げをした。細かいところは「日本ロケットストーブ普及協会」の石岡さんと連絡を取りながら進めた。1回はインターネットテレビ会話＝スカイプを使って相互に発信し、指導してもらいながら組立を行った。



設置作業①ヒートライザー部の設置②ヒートライザー頭部塗り③本体部の完成  
インターネットTV会話での製作: ④土台の赤土塗り⑤火入・試運転

ロケットストーブのたきつけをして、火をおこしまきを取りに行く大変さ、火のよさを考えた。山や木が少しずつ、かれているので、もう一度見つめなおし、大切にしていこうと思う。

灯油ストーブと温まり方がどう違うのか確かめたい。ロケットストーブは資源の乏しい国では役立ちそうだ。かまどの代わりにもなるので、フィリピンの山岳地帯に住んでいる人たちや学校に送ろうと思う。

# 「持続可能な社会」づくりの担い手をはぐくむ「中学生熟議」

## 広島県立広島中学校

### 1 活動概要

グローバルな視野で、生徒が環境問題や人権問題などを考え、それらの課題を自らの問題として取組成果をあげていくためには、「問題や現象の背景の理解」、「多面的かつ総合的なものの見方」をはぐくむことが必要であり、「体系的な思考力、批判力」、「データや情報の分析力」、「コミュニケーション能力」などの育成が欠かせない。同時に、「よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度」を育てたり、「人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力」を養ったりすることも重要である。

「中学生熟議」とは、中学生が学校という社会の一員として、さらには広く社会の一員として、よりよい集団生活や人間関係を築くために「話し合い」を重ねながら「共同して取り組む一連の自主的、実践的な活動」を生み出そうというものである。中学生が集団生活の中で直面する身近な問題について、よりよい生活づくりを目指し、熟考しながら話し合いを重ね、社会に参画する態度や自治的な能力を育成していく。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本校では、平成17年度から中学校第3学年に進級する前に、リーダーを育て自治的な能力を高めるために、生徒会を中心とした「リーダー・セミナー」という合宿を実施している。

「リーダー・セミナー」では、リーダーとしての心構えやリーダーシップのあり方について講義を受け、身近な課題を取り上げ話し合ったり、協同して取り組む自主的な企画の立案をしたりする。平成23年度は選挙で選ばれたばかりの生徒会役員を中心に32名が参加し、2泊3日の日程で実施した。

「熟議」では、学校生活における自分たちの学年生徒の課題をブレインストーミングやマッピングなどの手法を用いて整理し、学年生徒全員に共有を図るために学年集会を企画・実施させた。その後、課題を解決していくための企画、提案を行い、実行へと移していった。

#### (2) 指導のポイント

- ☆ 「中学生熟議」のテーマとしては、発達段階に即して、身近な生活の諸問題から「あいさつ」や「遅刻」等の課題を取り上げ、集団での解決が可能なものを選定させる。特別活動において実践する場合は、集団づくりに関わるテーマとする。
- ☆ 話し合う目的に即して内容や進め方、まとめ方の方向性を決めるなど見通しをもって話し合いの計画を立てさせる。その際、多くの考えが出るような手法として、ブレインストーミングやマッピング法などの手法を用いることも有効である。(付けたい力1)
- ☆ 自主的な活動にするために、司会や記録などの役割を分担し、一人ひとりが自分の意見を述べ合い、考えを深める場面を設定させる。お互いの意見を尊重するような話し合いのルールを作り、全員に意見が伝わるように事例や根拠をあげて説明させる。(付けたい力2)
- ☆ 集団としての結論を導き、一人ひとりが納得して解決に取り組むようにすることが大切である。(付けたい力3)

### 3 指導計画

◎ 本実践は、特別活動における生徒会活動に係るリーダー研修会である。担当教員の指導の下、生徒会役員を中心とした生徒がリーダーシップを十分に発揮して話し合い活動を進める「中学生熟議」である。

#### (1) ねらい

立場や考え方の違う人の考えを理解するとともに、相手を尊重しながら、協同的に課題を解決することができる力を培う。

#### (2) 対象学年 第2学年（全5時間）



|      | 学習活動   | 指導上の留意点  | 評価   |
|------|--|--|--|
| 課題把握 | 1 目標を確認し、見通しをもつ。<br><b>リーダーによる中学生熟議1</b> (50分)<br>2 学校生活における自分たちの課題について話し合う。<br>3 課題を整理し、「見える化」する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習意欲を喚起する。</li> <li>付箋などを活用させ、ブレインストーミングで多様な意見を出させる。</li> <li>マッピングの手法を活用し、課題を分類・整理させる。</li> </ul> |  |
| 目標設定 | <b>リーダーによる中学生熟議2</b> (50分)<br>4 課題を学年生徒全員に共有させるために、学年集会の企画を立てる。<br><b>リーダー主催の第1回学年集会</b> (25分)<br>5 第1回学年集会を実施し、課題の共有を図る。<br><b>リーダーによる中学生熟議3</b> (50分)<br>6 第1回学年集会で出た意見を踏まえ、目標を設定する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学年の各クラスと連携し、時間を設定する。</li> <li>学年集会の企画・運営を生徒にさせる。</li> <li>学年集会後、運営上の課題を整理させる。</li> </ul>              | 【関心・意欲・態度】<br>○立場や考え方の違う人の考えを理解しようとするとともに、相手を尊重しながら、協同的に課題を解決しようとしている。〔観察〕 |
| 課題解決 | <b>リーダーによる中学生熟議4</b> (50分)<br>7 目標を達成していくための計画、方法、役割分担を決める。<br><b>リーダー主催の第2回学年集会</b> (25分)<br>8 第2回学年集会を実施し、解決に向けた実施計画を提案する。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>進め方、まとめ方の方向性を決め、見通しをもって計画を立てさせる。</li> <li>誰にでもわかるように、計画書にまとめさせる。</li> </ul>                           | 【思考・判断・実践】<br>○「熟議」の意義を踏まえ、リーダーがそれぞれの立場を自覚し、全体の雰囲気大切にしながら活動している。〔観察〕       |
| まとめ  | <b>リーダーによる中学生熟議5</b> (50分)<br>9 第2回学年集会の成果と課題を整理し、実行に移す準備をする。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>全体で決定していったことを、どのように実行に移すかを具体化し、組織的な行動に移させる。</li> </ul>  | 【知識・理解】<br>○「熟議」の意義を踏まえ、立場や考え方の違う人々を理解している。〔観察〕                            |

### 4 生徒の反応

自治的な活動の大切さを学びました。このセミナーに参加していなかったら他人まかせにして、集団に対する意識を高めることができなかったと思います。

皆で団結し、話し合いを重ねることでリーダーとしての責任が持てるようになりました。最初は、集団を引っ張っていくことだけがリーダーの仕事だと思っていましたが、裏で支えたり、意見を出したり、全体の事を考えて行動するというのもリーダーの仕事なのだと実感しました。

参考 「中学生熟議」のすすめ（文部科学省）



### 1 活動概要

第1部「戦争と平和」

第2部「今、地球は」

第3部「生命」

さまざまな実習・体験活動を盛り込みながら、自分が生きていることの意味や地球の過去と未来について学んでいる。また、「ラベルワーク」という手法を用いることによって、問題を様々な角度から客観的にとらえ自ら考え行動しようとする能力を養うようにしている。発表会では、その集大成として、パワーポイントを用いたプレゼンテーション等を生徒達自身で行う。

第1部の「戦争と平和」では、太平洋戦争をテーマに「戦争とは平和とは」について考察し、その集大成としてハワイ研修旅行を実施する。

第2部の「今、地球は」では、環境問題、エネルギー問題についての実験・考察を行う。これまでの取り組みとしてエコクッキングを心がけた調理実習、全校生徒で取り組んだ「マイ箸週間」、学校周辺地域の清掃活動などがある。

第3部の「生命」では、沐浴実習・高齢者との交流・心肺蘇生法実習・保育実習と様々な自習を通して、人間が生まれてから老いていくまでを考えながら生命の尊さを学んでいる。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

以前は、外部講師を招いてエコクッキングの講義及び実習を行っていた。講義や実習から得るものは多くあったが、生徒が受け身になるという欠点もあった。数年前から基礎知識についてDVD教材を用いて学習した後、実際に献立作成から後片付けまでを自分たちで計画し、実践している。授業では毎回感想を一文にまとめた「ラベル」を作成し、まとめの授業では作成した「ラベル」をもとに、自分たちが普段実践できることや、家族や周りの人たちに伝える方法などを自分たちで考えている。そして、一年の学習の集大成である学習発表会で発表を行っている。

#### (2) 指導のポイント

- ☆ 調理実習計画を立てるとき、誰でも継続的に取り組めるような調理方法であることや、経済的な問題と環境問題の関連について意識させる。（付けたい力1・3）
- ☆ エコクッキングや「マイ箸」持参など、自分たちでできる身近な環境対策を実践することで、今後も継続して主体的に取り組むことができることを意識させる。（付けたい力1・3）
- ☆ 「ラベルワーク」という手法を用いることによって、問題を様々な角度から客観的にとらえ、自ら考え行動する能力を養う。（付けたい力2・3）

### 3 学習指導案

◎本時の授業…

「エコクッキング」の実習計画を立てる

#### (1) 本時のねらい

環境を意識した，実習計画を自分たちで考案する。

#### (2) 対象学年 第3学年

|      | 学習活動  | 指導上の留意点                                     | 評価  |
|------|---|---|---|
| 課題把握 | 献立だけでなく，準備（買い物）から後片付けまでの一連の計画をすべて立てる。   | ゴミを出さない・材料をむだなく使うことを意識させて，計画を立てさせる。         | 環境の保全と経済活動の関連を意識して考察することができる。                     |
| 自力解決 | 献立をもとに，一連の計画を各自で立てる。  |   |   |
| 集団解決 | 各自で立てた計画をもとに，班での計画を立てる。役割分担及びタイムテーブルを明確にする。環境を意識した部分を全員で把握して，実習当日に実行できるように準備する。 | 計画のどの部分が環境を意識したところかを，班全員が理解した上で実習に入れるようにする。 | 協同的かつ責任を持った実習手順が組まれている。                           |
| まとめ  | 実習終了後に，ラベル新聞を作成する。  | 実習後に，ラベルを書かせることによって，環境を意識したところを明確にさせる。      | 一人ひとりのラベルについての共通理解と考察がなされ，実習の目的がラベル新聞によって表現できている。 |

### 4 生徒の反応（授業後の感想等）

にんじんを皮ごと調理するなど，ゴミがほとんどでない工夫をすることの大切さがわかった。

水をためてから食器を洗えば，水が無駄にならないなど，ちょっとした工夫が環境によいことを実感できた。



# 協同的に課題を解決するための「切り抜き新聞」作成

## 広島県立呉三津田高等学校

### 1 活動概要

本校の「総合的な学習の時間」では、協同的に課題を解決するための方策の一つとして、1年生1学期に「切り抜き新聞」づくりに取り組んでいる。これは、世界の諸課題をテーマとして選び、4～5人の班で壁新聞を作成するものである。中国新聞社主催のコンクールに応募するとともに、同じ作品を9月の三津田祭（文化祭）でも展示し、来校者に投票で優秀作品を選出して頂いている。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

1年生の1学期に、「詩のボクシング大会」と平行して実施している。高校生として、改めて社会に対する興味・関心を高めるとともに、自己の進路探究に結び付けていくことも期待している。

小・中学校で作成した経験のある生徒も増えてきたが、その多くが個人で取り組んだものである。本校では、それをグループで作成させることにも意義があると考えている。入学間もない時期であるが、新しいメンバーで一つの課題に向けて取り組ませることが、他の学習活動や特別活動などでも学習効果を高めると考えている。

また、公民科「現代社会」の導入部分にあたる「現代の諸課題」からも働きかけを行うなど、教科・科目との連携も図りながら進めている。

#### (2) 指導のポイント

- ☆ 世界の諸課題をテーマに様々な角度から探究させることで、多面的・総合的に考えさせる。（付きたい力1）
- ☆ 一つの課題達成に向け、お互いを理解するとともに、相手を尊重しながら、協同的に課題を解決することを体験させる。（付きたい力2）

### 3 学習指導案

◎本時の授業…「新聞テーマの設定」(1時間)(単元全体では8時間程度)

#### (1) 本時のねらい

- 持ち寄った新聞記事を検討することで、さまざまな視点があることに気付かせる。
- テーマ設定に向けた協議を重ねることで、協同性を高めるとともに、他者の意見を取り入れ、自分自身の考えをいっそう深化させる。
- 過去の最優秀作品を分析させることで、思考力・判断力を育成する。

#### (2) 対象学年 第1学年

|      | 学習活動   | 指導上の留意点  | 評価                                 |
|------|--|--|------------------------------------|
| 課題把握 | ○日程確認(ワークシート利用)  | ○ルール確認(作成期限の厳守)<br>○取組期間の確認  | 知識・理解<br>思考・判断                     |
| 自力解決 | ○各自が持参した記事の説明<br>(個人の課題意識を発表)  | ○時間制限をかけ、簡潔に進める。   | 表現力                                |
| 集団解決 | ○過去の最優秀作品の分析<br>作成のポイントを協議する。<br><br>○テーマ設定<br>ポイントを再確認したうえで協議<br><br>○作成上の課題の把握<br>現状で不十分な点などを把握する。<br><br>○役割分担・準備計画 | ○記事内容・レイアウト・視点など<br>さまざまな観点からの分析を促す。<br>○高校と小中学校との作品の違いに<br>についても検討させる。<br><br>○今までの協議をふまえ、より高い次<br>元で設定できるようにする。<br>○自分の進路志望との関連も推測さ<br>せる。<br>○ワークシートを利用 | 思考・判断<br><br>技能・表現<br>関心・意欲・<br>態度 |
| まとめ  | ○課題の再確認<br>○自己評価(本時)   | ○次回までの課題の確認  |                                    |

### 4 生徒の反応(授業後の感想等)

個人ではなく、グループ作業だったことに少し戸惑ったが、できた新聞が表彰されてうれしかった。

自分が希望する進路に関係するテーマだったが、新聞記事で理解が深まったし、班員のアイデアやレイアウトのうまさに感心させられた。

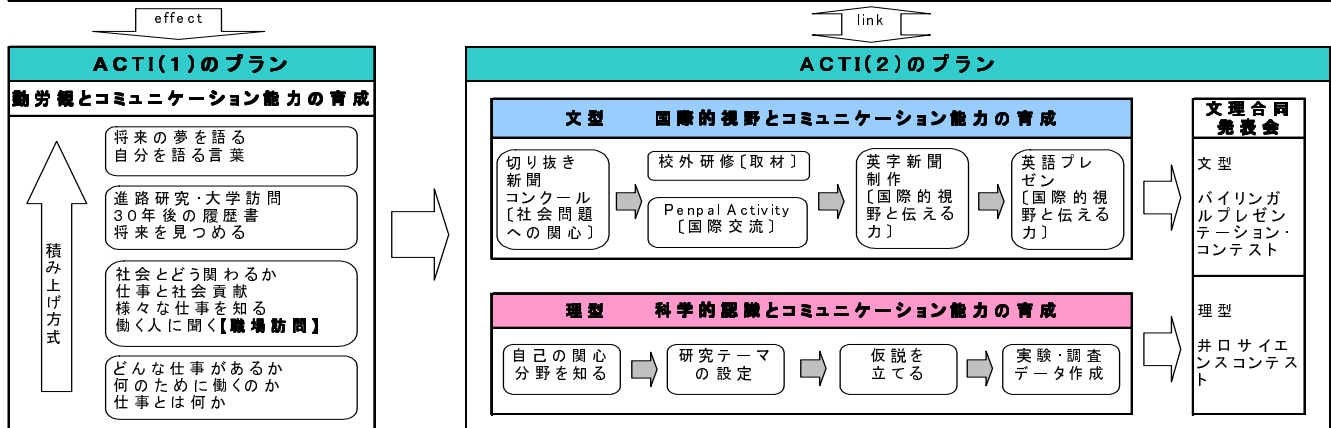
# 多面的総合的な視点をもつための切り抜き新聞制作

## 広島県立広島井口高等学校

### 1 活動概要

#### 【国際交流】のプラン

- ① 海外姉妹校との現地交流（ハワイ修学旅行・オーストラリアホームステイ研修）
- ② 海外からの訪問受け入れ（姉妹校からのホームステイ・留学生等の受け入れ）
- ③ 国際交流事業への参加（ユースイン広島・青少年のための国際セミナー・イングリッシュキャンプ・ユニタール青少年大使等）
- ④ 各種コンクールへの参加（英語スピーチコンテスト・英作文コンテスト等）



本校の総合的な学習の時間（ACTI）は2年間を通してESDを実践すべく全体の学習プランが組み立てられている。1年次では社会と自分との関わりを見つめつつ、「環境」「エネルギー」「政治」「経済」「教育」「人権」など様々なテーマを取り上げ、自分がどのように社会に貢献しうるかを考えさせる。2年次では、文系は国際社会に、理系は自然・環境に視野を拡大させ、協同的に課題を解決するための様々なプログラムに沿って体験的な学習をさせている。また、生徒の興味関心を広げたり、より高い志を持たせたりするために、学校独自の国際交流プランともリンクさせている（上図）。特に、2年文系のACTIでは、社会の諸問題について協同的に解決策を模索することと、国際交流を通じて異なる立場を理解することの二つがスパイラルを描きつつ発展深化するよう学習計画が作られている。

### 2 本実践事例について

#### （1）本事例実施の背景・これまでの取組

「切り抜き新聞」制作は2年文系のACTI最初のプログラムである。1年次の自己と社会との関わりを見つめる学習から、より多面的総合的な学習へと発展させるため、グループで社会の諸課題について考察する。「国際・人権・環境」「政治・経済・法律」「医療・看護・福祉」「教育・歴史・文化」という4つの分野の中からそれぞれ関心の深い分野を選択し、各分野の中でグループを形成する。

昨年度までは、「切り抜き新聞」の学習は社会への関心を深めるきっかけとなるに止まり、その後の学習との関連が薄かったが、今年度からは「切り抜き新聞」の学習で発見し考察したテーマを、「英字新聞」及び「バイリンガルプレゼンテーション」(注)の学習に発展深化させようと全体を再構成した。「切り抜き新聞」から「バイリンガルプレゼンテーション」までのプログラムに含まれる全ての活動がスパイラル的に一本の太い線上に並んだわけである。作品も地元新聞社主催の新聞コンクールに応募するだけでなく文化祭でも展示した。

(注) 一年間探究したテーマについて、英語によるプレゼンテーションを行う。パワーポイントデータは日本語で作成。

#### （2）指導のポイント

- ☆ 各グループが個別のテーマを設定する際、持続可能な社会の実現にむけての課題を意識させるとともに、簡単に解決できない問題について様々な角度から多面的に考察させるため、異なる主張の記事を収集整理させる。(付けたい力1)
- ☆ 多様な立場や考え方の違いに気付かせるとともに、違いを認め、相手の立場や考えを理解しながら議論していくことを体験させる。(付けたい力2)
- ☆ 年間を通して継続して探究活動を行うとともに、それを発信することによって周囲や社会と問題を共有し、解決に向けて協同的・主体的に行動する姿勢を身につけさせる。(付けたい力3)



### 3 学習指導案

◎本時の授業…本実践は4つの分野に分かれた生徒が4～5人のグループを作り、各分野の領域内でグループ個別のテーマを設定した後、関連する新聞記事を収集し、自分達の考察と合わせて「切り抜き新聞」に再構成するという学習である。

#### (1) 本時のねらい

- 新聞を読むことによって社会の諸問題に目を向け、年間の研究テーマを設定する。
- テーマに関して様々な主張に触れたり議論したりする中で、多面的総合的な見方を知る。
- 異なる立場を理解した上で協同的に課題を解決する力を身につける。

#### (2) 対象学年 第2学年

|     | 学習活動  | 指導上の留意点   | 評価                                    |
|-----|---|---|---------------------------------------|
| 導入  | 1 「切り抜き新聞」について知る。<br>2 新聞を持ち寄り記事を読む。  | ・「切り抜き新聞」のねらい及びコンクールの要項について説明する。<br>・前年度の作品が掲載された地元新聞社の号外を配布する。   | 学習のねらいを理解している。                        |
| 展開1 | 3 自分達のテーマを設定する。<br>4 新聞記事を収集する。   | ・年間を通して探究し、英字新聞やバイリンガルプレゼンテーションにおいても発信できるテーマ・内容を意識させる。<br>・異なる意見を広く収集させる。   | 年間を通して探究できるテーマを設定している。<br>記事を収集している。  |
| 展開2 | 5 記事を整理しながら、それらを元に何を課題として提起するかを議論する。<br>6 議論を通して自分達の立場や主張を明確にする。<br>7 考察したことをまとめ記述する。<br>8 切り抜いた記事や考察の配列及び見出しを考える。<br>9 台紙に記事を貼付したり考察を書き入れたりする。 | 〔「癌について」の場合の指導例〕<br>・なぜ癌について調べたいのか、何を問題提起したいのかを明確にさせる。<br>・記事はKJ法を用いて整理させ、内容を取捨選択させる。<br>・見る人にわかりやすく、かつアピールできる紙面作りを考えさせる。<br>・「早期発見の重要性」という主張を支える根拠を明確にさせる。 | 課題や主張を明確にしている。<br>班員で協力して議論や作業を行っている。 |
| まとめ | 10 出来がった作品についてプレゼンを行い、自己評価・相互評価をする。<br>11 文化祭で展示した後、コンクールに応募する。   | ・バイリンガルプレゼンテーションを意識して発表させる。   | 発表の仕方を理解している。                         |

### 4 生徒の反応(授業後の感想等)

同じ分野でも関心のあるところがみんな違って、新聞やプレゼンテーションに違いが出た。それが面白かったし、視野が広がった。

実際に行動するという事はACTIを通してでないといけない貴重な体験で、沢山のことを吸収できた。

切り抜き新聞は、正直最初は面倒くさかったけど、完成した時、さらに入賞できた時の達成感が面倒くさいこととは比べものにならないくらい大きくて、みんなで頑張れて良かったなと思った。

医療18班



グループテーマ

「癌について」

「みんなの新聞コンクール」佳作



# オーストラリアの多様性を理解するための調べ学習

## 広島県立安芸府中高等学校

### 1 活動概要

本校では国際科2年生が毎年8月下旬に10日間の日程でオーストラリアを訪れ、ホームステイや姉妹校との交流を行っている。その事前学習として、国際科の独自科目「地域研究」でオーストラリアの地誌・文化・社会について自らがテーマを決め、インターネット・文献・新聞記事を手がかりに課題の設定と解決策を提案するため1600字程度のレポートを作成する。そして、4グループに分かれて発表会を行い、選出された代表が三重大学とのテレビ会議に臨んで講評を仰ぎ、意見交換を行う。三重大学のオーストラリア留学・旅行経験者から貴重なアドバイスを受けることもある。

生徒の取りあげるテーマは衣食住などの文化、スポーツ、環境問題、少数民族の人権、日豪関係の歴史など多岐にわたっていて、事前学習の内容としてもきわめて重要なものが含まれている。オーストラリア研修旅行とその事前の取り組みは「持続可能な社会」の実現をはかるための課題を発見し、議論を進めながら共同的に解決を探っていく「ESD」の視点に立った内容となっている。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

オーストラリア語学研修旅行は国際科最大の行事である。これまでの授業で培ってきた英語によるコミュニケーション能力を実践的に試す場であり、さらに国際理解を深め、自らが課題解決のために主体的に行動できる力を育てる場でもある。「地域研究」は日本語によるプレゼンテーション能力を高めるための授業であるが、英語の表現力をつけていくためには豊かな日本語の表現力も求められることを学んでいく。

オーストラリアと日本の関係は、第二次世界大戦、白豪主義政策、捕鯨をめぐる摩擦などにみられるように、いつも平和的な関係ばかりではなかった。調べ学習は素顔のオーストラリアを知り、重要なパートナーとして友好的な関係を持続・発展させるために貢献する主体の形成をめざす授業である。

#### (2) 指導のポイント

- ☆ 調べ学習を通じてオーストラリアにおける先進的な環境問題への取り組みに関心を持たせ、深刻な問題である「フロンガスによるオゾン層の破壊」「地球温暖化とオーストラリアの乾燥化」などを解決していくため、日本の果たす役割について多面的・総合的に考えさせる。(付きたい力1)
- ☆ 調べ学習を通じてオーストラリアの歴史・文化に関心を持たせるとともに、内外でプレゼンテーションや議論を通じて文化の違いを理解・尊重する態度を育てる。(付きたい力2)
- ☆ オーストラリア語学研修旅行後、調べ学習やテレビ会議で学習した内容が実際の現地における体験で検証できたか、あるいは深まったかを記録するために「感想文集」を作成し、来年以後の研修旅行、調べ学習に活用するための課題を整理する。(付きたい力3)
- ☆ インターネットを使つての情報収集に偏ることなく、文献、テレビ番組、新聞や聞き取り(ALT、オーストラリア留学経験者)などを通じて、信頼性の高い情報を集めるシステムを構築する。(付きたい力3)

### 3 学習指導案

◎本時の授業…本授業は「地域研究」のほぼ1学期すべての時間を使って展開する。オリエンテーションにはじまり、テーマの決定、資料の収集と選別、1600字要旨の作成、発表会、そして三重大学とのテレビ会議で終了する。地歴公民科の4名で担当する。生徒は4つの班を構成する。

#### (1) 本時のねらい

- 多様なオーストラリアの社会・文化への理解を深め、自ら探した課題を解決していく態度を身に付ける。
- 自らの意見をわかりやすくプレゼンテーションに表現し、他者の意見を取り入れながら日本語による豊かなコミュニケーション能力を養う。

#### (2) 対象学年 第2学年

|      | 学習活動  | 指導上の留意点   | 評価  |
|------|---|---|---|
| 課題把握 | 【オリエンテーション】<br>「クイズ・オーストラリア (30問)」に解答し、自己採点を行う。<br>次の時間に資料を配布し「オーストラリアのプロフィール」を担当者が解説する。  | 得点を競うのが目的ではなく、関心のあるテーマを絞り込むためのオリエンテーションとして位置付ける。  | 得点は評価の対象としない。                               |
| 自力解決 | 関心のあるテーマをいくつかあげて、担当教員や班員に相談しながら研究したいテーマを決定する。   | 訪問地のシドニーに限定せず、オーストラリア全域をテーマの対象とする。  | 将来も発展的に研究できるテーマを考えている。                      |
| 集団解決 | 1 おもにコンピュータ室と図書室を使い、テーマについて調べ学習を進める。<br>2 完成した1600字要旨を教員も含めた班で読み合わせ、誤字、内容の誤り、わかりにくい表現を修正する。<br>3 班ごとに発表会を開き、生徒相互で採点し合い、最後に反省会を行う。 | 担当教員がテーマを選んだ理由について聞き取りを行い、調査や資料収集についてのアドバイスをする。<br><br>あらかじめ評価用紙を配布し、採点基準を確認する。教員も採点に加わる。 | テーマを選んだ動機をはっきり述べている。<br>しっかりした資料の解釈ができています。 |
| まとめ  | 班別発表会で選ばれた8名が、三重大学とのテレビ会議で発表を行う。講評・感想を受ける。  | 翌週の時間で今回の学習の成果と課題を話し合わせる。感想文集作成の打ち合わせを行わせる。   |   |

### 4 生徒の反応 (授業後の感想等)

発表するときのポイントとして自分が伝えたいことは何か、どんな表現が適しているかを考えたうえで、よりわかりやすくするためにテーマ別で分けたり、1つのテーマをいろんな角度から見たり調べたりするとよいことを学んだ。三重大生の意見に共通しているのは、調べたことはすべてが本当とは限らないし、実際に経験することで新しい発見も想像以上の驚きもあるということだと思う。調べたことについて、常に疑問をもって話し相手を意識することで、より一層深いものになることを知った。ありがとうございました。



# 「総合的な学習の時間」のE S D授業実践

## 広島大学附属高等学校

### 1 活動概要

本校の特徴的なE S D実践（( )内はテーマ）としては、以下の3つを挙げることができる。

- (1) S S Hの海外・国内研修や課題研究（キッチン・キットサン，LED，バイオエネルギーなど）
- (2) 高校2年の「総合的な学習の時間」（F S C認証制度，フェアトレード，カーボンオフセットなど）
- (3) ユネスコ委員会やユネスコクラブの活動（節電活動，エコキャップ活動など）

いずれの実践も、現代の産業社会を持続可能性の観点から見直すことでは共通しており、今後もこれらの実践が生徒・教員間、生徒間の発信や交流によってつながっていくことが望まれる。

また、教科間の連携や協力について話し合う機会が増え、その成果を授業として実践しているものもある。3年前には化学と政治経済の教員が、それぞれの視点からバイオディーゼルの是非について問うティームティーチング授業を行った。それ以降も、E S Dの内容を深めるために教科の枠を超えた実践を行うこと、節電活動など生徒の自発的な実践をより科学的なものに高めることを課題意識とし、教材開発や委員会・クラブ指導において取組を続けている。

### 2 本実践事例について

#### (1) 本事例実施の背景・これまでの取組

本時では窒素循環について考える教材として茶栽培を取り上げた。それは、持続可能な社会の形成、特に農業やエネルギー問題に関して、新たな視点を提供し多面的に考えるためである。バイオディーゼルの授業のように、生物由来の有機化合物からエネルギーを取り出し、持続可能な炭素循環(カーボンニュートラルなど)を構築する授業実践は充実している。しかし、窒素循環に関する授業実践は少なく、生徒の認知度も低い。

そこで、窒素循環の管理が課題とされている茶栽培を教材に、持続可能性を考える授業を構想した。生徒には、緑茶飲料について茶園の環境負荷とのつながりを知り、生産者と課題を共有し、フードシステムや自らの日常生活を問い直すことを期待した。

本授業は、茶栽培(地歴公民科)、窒素循環(理科)、有機J A S認定(家庭科)、硝酸性窒素の健康被害(保健体育科)など、様々な教科の既習内容や専門科学を取り入れ、「総合的な学習の時間」に特有のE S D実践として提案するものである。

#### (2) 指導のポイント

☆環境保全対策を、外部不経済ととらえ、行政による解決を目指すだけでなく、環境保全活動を「付加価値」とする立場から有機栽培茶のマーケティングを再考させる。そうして多面的な見方で解決に取り組むための新たな視点を提供する。(付けたい力1)

☆茶園で生じる環境負荷(N<sub>2</sub>Oの発生、水質汚染など)については、産業社会における生産者の社会的立場づけを考慮して評価させたい。とくに、消費者の嗜好や飲料会社の戦略との関係を具体的に学習し、なぜ多肥という判断を下したかを、生産者の立場に立って考えさせる。(付けたい力2)

☆茶園で生じる環境負荷を、生産者(茶園・飲料会社)、消費者(市場)等が形成するフードシステム、および外部環境(地形、気候、生態系)としてとらえさせる。C Mづくりでは、フードシステムのどの部分を変えたいかを具体的に表現させる。(付けたい力3)

### 3 学習指導案

◎本時の授業…本実践は、総合的な学習の時間に行う。生徒たちは、様々な教科の学習内容に基づいて話し合い、茶のフードシステムを見渡した解決策を考えるものである。

#### (1) 本時のねらい

「おいしいお茶」を望む市場のために、多肥に陥る茶園がでてきた。その結果、大気中への一酸化二窒素の放出、地下水への硝酸性窒素の流出が進み、温室効果、オゾン層破壊、および健康被害等が懸念される。本時では、このような問題状況を把握し、消費者として何ができるかを考えさせ、CMとして発信させたい。

#### (2) 対象学年 第2学年

|     | 学習活動   | 指導上の留意点   | 評価                         |
|-----|--|---|----------------------------|
| 導入  | ○生活のなかの「お茶」を振り返る。<br>・緑茶飲料の銘柄をあててみよう。<br>・緑茶飲料を購入する基準は何だろう？                                      | ・ラベルをはがした緑茶飲料を試飲。<br>・様々な意見を取り上げ、共有する。  |                            |
| 展開1 | ○茶園の環境負荷について考える。<br>・茶園が多肥を行う理由を考える。<br>・窒素肥料が環境に悪い点を話し合う。<br>・多肥以外の対応について話し合う。                  | ・萎縮した茶の根の写真を見せる。<br>・N <sub>2</sub> Oについて、総量、肥料由来の割合、温室効果、健康被害等を提示。<br>・点滴施肥、石灰窒素肥料などを紹介。 | 茶園の多肥を、消費者の嗜好との関係で理解している。  |
| 展開2 | ○緑茶飲料市場の発展について考える。<br>・I社の緑茶飲料の販売戦略について「飲料化比率」を用いて理解させる。<br>・緑茶飲料市場を拡大させたのは、消費者のニーズか、企業の戦略かを考える。 | ・緑茶市場の拡大、茶園の経営面積の減少を資料として提示する。<br>・自らの購買行動やCMの効果などを省みて話し合わせる。                             | 消費者の視点だけでなく、企業の視点からも考えている。 |
| まとめ | ○有機JAS茶を推奨するCMを作ってみよう。   | ・有機JAS茶を試飲させる。<br>他社批判CM、公共広告機構型CMも許可する。  |                            |

### 4 生徒の反応（授業後の感想等）

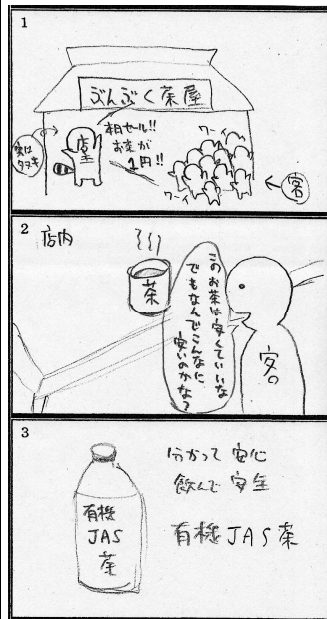
窒素循環については、知らない生徒が多かった。(感想) 環境負荷の大きい静岡県を事例としたため、「茶栽培＝環境負荷」ととらえる生徒もいた。CMは、消費者に自己の消費行動を問い直させる作品(右図)が多く、感想文には有機茶の販売促進以外に、制度を構築する意見も見られた。(感想下)

#### 生徒の感想

健康に良いというイメージがある緑茶なのに、実は環境に悪い(場合もある)なんて知らなかった。そのうえ、緑茶を作る会社の思い通り(?)に、消費は増えていく…。何だか嫌です。

多くの人は、価格や味をもとに購入するので、エコ商品は急激には増えないと思う。国全体の規制として有機栽培が義務付けられたりすれば変わると思うが。エコファーマーに補助金を出し、消費者が買いやすくすることで競争力を上げると良い。

#### CM作品事例

|  |   |
|--|---|
|  | <p>【音声・効果】</p> <p>1(店主)<br/>「いらっしゃーい」<br/>「お茶が安いよ〜」</p> <p>2(客)「このお茶は安くていいな。でもなんでこんなに安いのかな？」<br/>ガーン♪ [ネガポジ反転]<br/>(ナレーター)「わからなくていいんですか？」</p> <p>3(ナレーター)<br/>「わかって安心、飲んで安心、有機JAS茶」</p> |
|--|---|

